

一期一会

自律 目標に向かって自分自身を律する
感謝 思いやりや感謝の気持ちをもつ
貢献 将来社会に貢献する態度を養う

2021.7.12 第14号



『もう会えないかもしれない』『生きた心地がしなかった』

2年前の事件ですが記憶に残ってるでしょうか。

当時は社会的に大きく取り上げられた事件でした。

大阪で自宅を出たまま行方不明となっていた小学6年女児が無事に栃木県で保護された事件です。無事よかったですと思うのと同時になぜ栃木？と思ったのは私だけではなかったと思います。そして、やはりそこにはスマホが関係していて、SNSでの繋がりが確認されています。

「とても長く感じました」「生きた心地がしなかったです」

「もう会えないかもしれないというのは考えなくなかったですけど、やはりよぎりました」

「ついて行った娘が悪いというのは分かっていますが、6日ほど監禁したことは許せないです」

児童が保護されたあとに母親が語ったことばです。

母親もスマホを持たせるにあたって気を付けていたようですが。

母親は女児のスマートフォンを定期的にチェックしているが、今月上旬に見た際も不審なやりとりは確認できなかった。だが事件に巻き込まれ「うちの子は大丈夫と過信した」と反省を示した。

2019.11.26 宮崎日日新聞

「うちの子は大丈夫」「うちの子に限って」という過信により、定期的なチェックが適当になりルールが曖昧になっていったことが予想されます。

宮崎県でも毎年18歳未満の子どもたちがSNSをきっかけに犯罪に巻き込まれ被害に遭っています。携帯電話・スマホに関する県教委の2019年度調査によると、所有率は高校生94.7%、中学生59.9%、小学生36.5%、SNSの使用は中学生以上で多くなる傾向にあります。家庭で使い方の「ルールがある」と答えた割合は小学生54.5%、中学生44.5%、高校生23.3%となっています。

本校の生徒もスマホを所持している状況がありますので、対岸の火事として済ますことはできません。

「うちの子は大丈夫」「うちの子に限って」という過信は親なら誰でも起こりえることです。今一度スマホ・タブレットの所持について、ご家庭で話題にしていただけると有り難いです。

若者3割ゲーム2時間超

2019.11.28 宮崎日日新聞(抜粋)

依存症の専門治療を行う国立病院機構久里浜医療センターの調べで、全国の10～29歳の約33%が平日に1日当たり2時間以上オンラインゲームなどをしており、時間が長い人ほど、学業や仕事への悪影響や、体や心の問題が起きやすい傾向にあったとの調査結果を発表した。

ゲーム障害

ゲームをしたいという衝動を抑えられず、日常生活よりもゲームを優先し、健康を損なうなどの問題が起きても続けてしまう依存症。有効な治療法は確立されていない。

→ 長時間ほど心身に悪影響

動画炎上、不謹慎な書き込みで一生を狂わす若者

全国ICTカウンセラー 安川 雅史

Twitter、TikTok、Instagramのストーリーなどにバイト店員が不謹慎な動画を載せ炎上騒ぎになってしまい、業務妨害による損害賠償請求に踏み込む企業があとをたちません。また悪質なつぶやきや、画像、動画を載せた人は、個人が特定され、ネット上に個人情報がさらされ、誹謗中傷があとをたたず精神的に追い込まれてしまうこともあります。投稿した不謹慎動画は、当人の意図に反して繰り返し複製され、インターネット上で急速に拡散することがあり、後から削除しようとしても、結果的に「半永久的に残り続けること」になります。

日本では、2013年に、後に「バイトテロ」「バカッター」「馬鹿発見器」と称される一連の事件が注目を集めた際に、関与した者たちの個人情報や、消去された画像などが別のかたちで流布するといった事態が関心を集め、デジタルタトゥーと表現されるようになりました。企業の中にも、採用時には、ネットの情報も参考にする企業が増えています。



子どもたちには不用意なつぶやきや動画・画像投稿により人生を狂わすことがないようにしっかりと指導していかなければなりません。ネットに一度載せてしまった動画はFacebook、TwitterなどSNSから個人が特定されるケースも珍しくありません。ネットに載せた様々な情報はリンクし、本名を調べあげられ、関係者に通報されることがあります。

ネットに書き込むということは、世界中の人が見ていることを認識しなければいけません。「今、部活の先輩と飲み会から帰る途中。明日は学校休みます」「今日は、店員が少なかったから、リップ2本万引き。楽勝!」「今日、学校サボってパチンコ行って大損したあー!」このような高校生のつぶやきを見かけることがあります。当然、これらの行為は法律違反で、あっという間に個人が特定され、学校にもクレームの電話が入り、処分を受けることとなります。自分のとんでもない行為を世界中に向けて発信してしまうと一生消えない傷として残ってしまいます。

また、著名人などの目撃情報をつぶやき炎上しているケースも目立ちます。「芸能人の〇〇が彼女と店に来たけど、ブスな彼女だった」「合コンに芸能人の〇〇が参加していた。××の悪口ばかり言っていた」「私がメンバーに加わった会社の新企画の〇〇は、来週、記者発表だよ」など、他人のプライバシーや、守秘義務をつぶやいてしまうケースも多い。

また感情的になり、殺害予告を書き込んでしまったり、誹謗中傷を書き込み訴えられたり、逮捕されるケースもあります。何げないツイートにも個人情報を特定できるヒントはたくさんあります。アカウントを消しても、過去のツイートを発見され拡散が始まれば、あっという間に炎上し、一生消えない傷を背負うこととなります。生徒が載せた動画で学校の評判が落ち、入学者数にも影響が出る時代だということを認識しなければなりません。